

エリブリン

対象

手術不能または再発乳癌、進行または再発悪性軟部肉腫

投与順	抗癌剤名	投与量	手技	投与時間・速度	投与日(d1,d8等)
1	エリブリン	1.4mg/m ²	div	全開	d1,d8

1コース期間	21日間
総コース数	規定せず。PDになるまで
コース間での休薬の規定	投与延期後1週間以内に好中球1000/mm ³ 以上、血小板75000/mm ³ 以上、非血液毒性grade2以下まで回復しない場合は休薬
投与量の増量規定	規定せず
減量規定・中止基準	<p>投与開始基準: 好中球数1000/mm³以上、血小板数75000/mm³以上、非血液毒性grade2以下を満たさない時投与延期</p> <p>各サイクル1週目: 上記まで回復した場合に投与開始。</p> <p>各サイクル2週目: 投与延期後1週間以内に上記まで回復した場合、減量して再開。</p> <p>減量基準: 前サイクルにおいて下記の副作用などが発現した場合、減量した上で投与</p> <p>①7日間を超えて継続する好中球数減少(<500/mm³) ②輸血を要する血小板減少(<50000/mm³)</p> <p>③発熱または感染を伴う好中球減少(<1000/mm³) ④Grade3以上の非血液毒性</p> <p>⑤血小板数減少(<25000/mm³) ⑥副作用により、2週目に休薬した場合</p> <p>減量の目安: 減量前の投与量 → 減量後の投与量</p> <p>1.4mg/m² → 1.1mg/m²</p> <p>1.1mg/m² → 0.7mg/m²</p> <p>0.7mg/m² → 投与中止を考慮</p>
コースによる変化	規定せず
投与間隔の短縮規定	規定せず
2コース目以降の投与開始基準	好中球数1000/mm ³ 以上、血小板数75000/mm ³ 以上、非血液毒性grade2以下
注意すべき副作用	骨髄、肝機能障害

エリブリン

1コース期間 21日間
 所要時間 35分間

ルート	Rp	薬剤名	標準投与量	投与方法	投与速度	投与時間	d1	d8	d15
主管	1	生食100mL デカドロン 6.6mg		div	400ml/hr	15min	○	○	
	2	生食50mL ハラヴェン【 】mg/body	1.4 mg/m ²	div	全開	5min	○	○	
	3	生食50mL		div	200ml/hr	15min	○	○	

コメント

Reference:

乳癌

Javier C, et al. Phase II study of the halichondrin B analog eribulin mesylate in patients with locally advanced or metastatic breast cancer previously treated with an anthracycline, a taxane, and capecitabine. J Clin Oncol 2010; 3922-3928.

悪性軟部肉腫

Schöffski et al. Eribulin versus dacarbazine in previously treated patients with advanced liposarcoma or leiomyosarcoma: a randomised, open-label, multicentre, phase 3 trial. Lancet, 2016.